

令和5年度

事業報告

令和5年4月1日～令和6年3月31日

公益財団法人

ひと・健康・未来研究財団

令和5年度事業報告

(期間:令和5年4月1日～令和6年3月31日)

事業概況

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究を振興し、もって国民の健康増進と生活の質の向上に寄与する。

公益事業として

- (公1)ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための**研究調査事業を実施**
(公2)ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する**助成事業を実施**

事業の内容

定款の第4条における1、2、3についてはいずれも研究調査事業の具体的内容であり、事業としては一つと考えているため、公1にまとめている。
令和5年度(2023年度)の活動実績の概要は以下の通り。

1. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究調査事業(公益1)

(1)「ひと・健康・未来」の研究調査事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するために、文科と理科の壁を取り払い知のフロンティアとして実施している。この事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与することを目的としており、当財団役員が中心的な役割を果たし、その結果を公表している。

(1)－①研究会の推進(未来研究会の開催)

財団役員を含む科学者と外部の知の交流として、当財団役員の企画により実施している。令和5年度は第55回から58回までを実施した。日程、講師、テーマは以下の通り。

●第55回 未来研究会

日 程/ 令和5年7月7日(金)

講 師/ 蓮尾 英明(関西医科大学心療内科学講座教授)

テーマ/ 「Identified Patient と支援者双方の視点と共鳴」

患者と見なされる人(Identified Patient)への、支援者の言動、生き方は Identified Patient の外部表出反応、内的生理反応、生き方にまで共鳴することとなり、その相互作用は全人的医療としての支援の醍醐味といえる。支援者が救われるような、支援の質をあげるディスカッションの種を提起。

●第56回 未来研究会

日 程/ 令和5年9月22日(金)

講 師/ 村上 靖彦(大阪大学大学院人間科学研究科人間科学専攻教授)

テーマ/ 「ケアから作る社会」

看護ケアおよび社会的困窮地域での子育て支援での調査、ヤングケアラーへの聞き取り、および触法の精神障害者のケアでの調査研究をふまえて、当事者や支援者の個別の語りのひだから見えてくるケアのあり方について講演。

●第57回 未来研究会

日 程/ 令和6年1月12日(金)

講 師/ 木原 康樹(地方独立行政法人神戸市民病院機構理事、神戸市立医療センター中央市民病院病院長)

テーマ/ 「21世紀に残された課題としての心不全」

20世紀後半にて最も目覚ましい発展を遂げた内科領域は循環器病学であるといっても過言ではなく、脅威であった急性心筋梗塞の死亡率は顕著に抑制された。一方、社会の高齢化とともに慢性心疾患とりわけ心不全が新たな社会問題となってきた。ここ20年間における講演者の心不全に対する取り組みを紹介。

●第58回 未来研究会

日 程/ 令和6年2月22日(木)

講 師/ 飯原 弘二(国立研究開発法人国立循環器病研究センター病院病院長)

テーマ/ 「脳卒中对策の現状と未来—循環器病対策基本法成立から五年の節目を迎えて」

脳卒中、心臓病の克服を目指し、2018年に循環器病対策基本法が成立してから5年が経過した。脳卒中、循環器病の特徴から、脳卒中と心臓病の専門家が手を取り合って、対策を進める必要がある。脳卒中对策の現状と未来について概説。

(1)－②市民公開講座の開催

研究の成果をまとめ、市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、公衆への啓蒙活動としている。開催については当財団役員を含む専門家が関与し、企画から運営にあたっている。参加は自由であり、参加費は無料。令和5年度の市民公開講座は、新型コロナウイルス感染症が第5類となったのを機に、会場での開催は以前のような形態とした。コロナ禍から始まった「座談会シリーズ」を継続し、今年度は2回開催した。内容は財団機関誌に順次掲載していく。

●第29回ひと・健康・未来シンポジウム2023大阪

・日 程/ 令和5年12月16日(土)

・会 場/ 梅田スカイビル スペース36L

・企画者/ 伏木 亨理事

・テーマ/ 「変貌する食と栄養:現代社会が問う食べることの意味」

・後 援/ 大阪市

・参 加/ 64名(オンサイト:25名、オンライン:29名)

現代に生きる人々はこれまでにない急な速度で生活の様式を塗り替えており、現代社会における食と栄養の目的は、もはや生きるための栄養素摂取ばかりでは無くなった。新しい食の意味とは何か、変容しつつある現代における食べることの意味について、食と栄養の視点から講演が行われた。

●第4回 座談会シリーズ

- ・日 程/ 令和5年6月16日(金)
- ・企画者/ 明和 政子理事
- ・テーマ/ 「『こどもまんなか』な社会とは？」

2023年4月「こども基本法」が施行され、子ども政策の司令塔となる「こども家庭庁」が始動した。施策のキーワードとして、「こどもまんなか社会の実現」が謳われているが、その内容の具体化はこれからである。日本が目指すべき「こどもまんなか社会」について議論された。

●第5回 座談会シリーズ

- ・日 程/ 令和5年12月1日(金)
- ・企画者/ 山極 壽一理事
- ・テーマ/ 「地球永住計画」

地球環境が急速に劣化していく昨今、人間の生き方を歴史以前に遡って再考してみる必要がある。これからの持続的な人間の生き方について議論が行われた。

(1)－③成果の公開と出版活動(出版)

市民公開講座、未来研究会の成果をより多くの人々に周知するために、令和5年度は機関誌「ひと・健康・未来」を3回発刊し、講演内容ほかを掲載している。更に、ホームページ上で開催告知や機関誌のアーカイブを PDF ファイルにして公開している。機関誌の掲載内容は以下の通り。

●「ひと・健康・未来」34号(令和5年7月発刊)

- ・特集:第27回シンポジウム「和食の未来—外から見た和食、内から見た和食—」
- ・座談会シリーズ第3回:「環境と福祉をキーワードにして」
- ・第53回未来研究会:「揮発性物質(匂い)を介した植物間コミュニケーション」
- ・コラム:ひとと健康と未来と—財団の窓から—「才能を育む」

●「ひと・健康・未来」35号(令和5年11月発刊)

- ・特集:第28回シンポジウム「身体を通してこころを感じる」
- ・スペシャルインタビュー:「思いやりの心を積み重ねるなかで品格が生まれる」
- ・第54回未来研究会:「視覚化される味覚」
- ・コラム:ひとと健康と未来と—財団の窓から—「ニューノーマル」の時代に

●「ひと・健康・未来」36号(令和6年3月発刊)

- ・特集:座談会シリーズ第4回「『こどもまんなか』な未来社会とは？」
- ・第55回未来研究会:「Identified Patient と支援者双方の視点と共鳴」
- ・第56回未来研究会:「ケアからつくる社会」
- ・第20回助成研究発表会特別講演会:「さまざまな生理作用が期待される腸管ホルモンインクレチンの歴史と現状、展望」
- ・令和5年度助成研究発表会報告
- ・コラム:ひとと健康と未来と—財団の窓から—「『ソバーキュリアス』というライフスタイル」

(1)－④成果の公開と出版活動(ホームページ)

機関誌のアーカイブ、イベント情報や研究助成の告知など、財団からの情報を発信する重要な媒体として位置付けている。より多くの方に有益な情報をお届けするため、情報の充実やコンテンツの見直しに努めている。

(2)「ひと・健康・未来シンポジウム」の調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究と普及及び啓発事業。こころ、健康、自然環境の情報の調査研究を行い、普及と啓発を行っている。

(2)－①情報の収集と公開講座の計画

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて学術情報を収集するとともに他機関の研究者に呼び掛け、知識の普及と啓発を行うためにシンポジウムを計画した。

(2)－②市民公開講座の開催

年1回は、財団の拠点である京都で市民公開講座「ひと・健康・未来シンポジウム」を開催し、知識の普及と啓発を図っている。参加は自由であり、参加費は無料。令和5年度の開催は以下の通り。

●第28回ひと・健康・未来シンポジウム2023京都

- ・日程/ 令和5年7月22日(土)
 - ・会場/ 京都大学医学部 芝蘭会館・稲盛ホール
 - ・企画者/ 明和 政子理事
 - ・テーマ/ 「身体を通してこころを感じる
ーポストコロナ社会で幸せを感じる生き方を探そうー」
 - ・後援/ 京都府、京都市、京都市教育委員会、京都市社会福祉協議会、京都新聞
 - ・参加/ 80名
- サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間を融合させ、経済発展と社会的課題解決の両立を図る社会が目指されている中、「身体を通してこころを感じる」一心身一如の観点から、ポストコロナ社会で人類が幸せを感じる生き方について講演が行われた。

(2)－③成果の公開と出版

市民公開講座の成果をより多くの人々に周知するために、テーマがまとまった段階で発表者の論文等を集め印刷物として出版している。当該市民公開講座は令和5年11月発刊の機関誌「ひと・健康・未来」35号において、講演内容を掲載した。また、ホームページ上で講座の開催告知や機関誌のアーカイブをPDFファイルにて公開中。

(3)海外諸団体との連絡協力のための調査研究事業

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究に関わる海外諸団体との連絡及び協力のための事業。こころ、健康、自然環境の調査研究に関する海外諸団体との連絡及び協力を進めている。

(3)－①海外諸団体との連絡協力

財団役員の科学者を含むプロジェクトにおいて海外研究者、諸団体との連絡と協力を進

め、研究者に呼び掛けて連絡と協力を行い、普及と啓発を行うために国際的な研究者によるフォーラムを計画、開催する。令和5年度は、役員から上記事業に関して、実施できる事業提案がなく行っていない。今後テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(3)－②公開講座の開催

調査研究テーマに関して、数年に1回「国際フォーラム」を開催し、知識の普及と啓発を図る。上記理由にて、令和5年度は実施していない。

(4) 共同研究と委託研究

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための基礎研究や臨床研究、さらに調査研究などを共同研究や委託研究により進める事業。健全な食生活と予防医学に重点をおいた研究、さらに自然との共生を基本に、こころの健康を目指した研究などを進める研究者と共同研究と委託研究を進める。

(4)－①共同研究と委託事業の推進

財団役員の専門家が上記に関連するテーマについて検討し、本財団の目的に適合する基礎研究や臨床研究を進めている研究者を検討し、共同研究または委託研究を行う。令和5年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、行っていない。今後、テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(4)－②研究成果の公開

上記理由にて、令和5年度は実施していない。

(5) がんの温熱療法の調査と普及促進

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための調査研究のひとつとして、がんの温熱療法の普及促進のための調査と広報事業である。令和5年度は役員から、上記事業に関して、実施できる事業提案がなく、行っていない。今後テーマのあり方について継続して協議を続ける。

(5)－①情報収集活動

上記理由にて、令和5年度は実施していない。

(5)－②広報活動

上記理由にて、令和5年度は実施していない。

2. ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業(公2)

(1)「食品」、「環境」、「医学」、「福祉」をテーマとする公募による研究助成

ひとの健やかでこころ豊かな未来を実現するための研究に関する助成事業。

(1)－①研究助成の申請及び選考

上記に関するテーマにおいて、重要な研究であるが科研費等の公的予算がなかなか降らないような研究をサポートしたいと考えている。公募の申請書を元に財団選考委員会が選考する。令和5年度は公募(令和5年4月1日～4月30日)、選考委員会(令和5年6月27

日)を実施した。令和5年度の応募総数は535件であった。
採用件数14件(食品2件、環境2件、医学7件、福祉3件)、助成金総額は1,300万円。採用結果は以下の通り。

<食 品>採用件数:2件

- ・「過剰飲酒を予防する機能性食品の開発」
佐々木 努／京都大学大学院農学研究科
- ・「抗老化作用を有する機能性食品の社会的孤立性認知症様症状および
脳内細胞老化に対する効果の検討」
多田 敬典／至学館大学健康科学部

<環 境>採用件数:2件

- ・「二十四節気・七十二候を用いた生物文化多様性教材の開発
—環境・古典・美術・ものづくりの学際的視点から—」
高芝 麻子／横浜国立大学教育学部
- ・「地域社会を取り残さないための自律分散型水利用・供給システムの構築」
伊藤 禎彦／京都大学大学院工学研究科

<医 学>採用件数:7件

- ・「脳機能低下のメカニズム解明とその予防への展開」
藤田 幸／島根大学医学部医学科
- ・「高齢者における味覚障害の予防・治療法確立に向けたメカニズム解明」
宗 可奈子／京都大学大学院薬学研究科
- ・「生体内環境における細胞代謝機構の解明に向けたグルコース取り込み活性の
新規1細胞計測技術」
土谷 正樹／京都大学大学院工学研究科
- ・「深層学習や Radiomics の手法を用いた MRI 画像解析による子宮筋腫と
子宮肉腫の鑑別」
吉田 美貴／筑波大学附属病院放射線診断 IVR 科
- ・「in vivo イメージングで明らかにする孤独認知機構」
福光 甘齋／藤田医科大学医学部
- ・「魚介類に対する成人の食物蛋白誘発胃腸炎／
Food protein-induced enterocolitis syndrome(FPIES)の病態研究」
渡部 翔／草加市立病院消化器内科

- ・「褐色脂肪細胞の鍵因子 NFIA が肥満、糖尿病、心疾患を抑制する
メカニズムの理解から精密医療への展開」
平池 勇雄／東京大学保健・健康推進本部

<福祉>採用件数:3件

- ・「研究から『ひとの人権・福祉』を守るための試み
～『研究から自分の身を守るためのチェックシート』の開発～」
森 拓也／京都大学医学部附属病院
- ・「インクルーシブ教育をめぐるエスノグラフィー研究—インド・ケララ州の事例から」
中江 優花／京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
- ・「若者たちを孤立と不安定から救う方途としての職住同一型協同組合に
関するアクション・リサーチ」
富永 京子／立命館大学産業社会学部

(1)－②研究助成テーマの研究成果発表会の開催

研究助成を受けた研究成果の発表を行う。発表会には近隣の食品系、環境系、医学系、福祉系の大学を含めた各大学に招待状を送付し、参加費は無料である。令和5年度は、令和5年11月11日(土)に京都タワーホテル9階で、ポスター形式で開催した。研究助成の意義を周知する目的で一般市民を公募により招待し、特別講演をハイブリッド形式で開催した。特別講演の内容は機関誌に掲載し、機関誌はホームページ上でアーカイブをPDFファイルにして公開している。

●第20回助成研究発表会

- 日 程/ 令和5年11月11日(土) 11:00～16:00
- 会 場/ 京都タワーホテル9階「八閣」
- 発 表 者/ 24 名
- 参加役員/ 7名
- 特別講演/ 「さまざまな生理作用が期待される腸管ホルモンインクレチンの
歴史と現状、展望」
- 講 師/ 清野 裕評議員
- 参 加 者/ 121 名(オンサイト89名、オンライン32名)

3. 評議員会及び理事会に関する事項

(1) 令和5年5月23日開催 定例理事会 ※リモート併用会議による

議事内容	審議結果
令和4年度事業報告等	承認
令和4年度決算報告	承認
次回評議員会の招集	令和5年6月16日書面決議
令和5年度職務執行状況報告	理事長、副理事長より報告

(2) 令和5年6月16日 定時評議員会 ※決議・報告の省略による全員同意

議事内容	審議結果
令和4年度事業報告等	理事長による報告
令和4年度決算報告	承認
令和5年度事業計画	理事長による報告
令和5年度事業収支予算	理事長による報告
令和5年度資金調達及び設備投資の見込み	理事長による報告
令和5年度選考委員選任	理事長による報告
役員選任	理事長による報告

(3) 令和6年3月18日開催 定例理事会 ※リモート併用会議による

議事内容	審議結果
令和6年度事業計画案	承認
令和6年度事業収支予算案	承認
令和6年度資金調達及び設備投資の見込み	承認
令和6年度選考委員選出	選出
令和5年度職務執行状況報告	理事長、副理事長より報告

※本年度、決議・報告の省略の方法、リモート併用による開催の方法にて実施した。

以上

附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」

特になし

令和6年5月

公益財団法人 ひと・健康・未来研究財団